

### 第3学年道徳学習指導案

日 時 平成27年11月6日(金) 3校時

学 級 3年1組(男子16名 女子8名 計24名)

授業者 谷地 畝 修子

1 主題名 友達と互いに理解し合っ【2-(3)友情信頼】

2 資料名 「同じ仲間だから」(「わたしたちの道徳 小学校3・4年」 文部科学省)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

学習指導要領第3章の道徳 第3学年及び第4学年の内容項目2-(3)は、「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う」である。これは、健康的な仲間集団を積極的に育成するために、友達関係の在り方について主体的な内面の自覚を図ることをねらいとする内容項目である。この内容項目は次のように発展していく。

低学年2-(3)  
友達と仲よくし、  
助け合う。

中学年2-(3)  
友達と互いに理解  
し、信頼し、助け  
合う。

高学年2-(3)  
互いに信頼し、学  
び合っって友情を深  
め、男女仲よく協  
力し助け合う。

中学校2-(3)  
友情の尊さを理解して心から  
信頼できる友達をもち、互いに  
励まし合い、高め合う。  
2-(4)  
男女は、互いに異性について正  
しい理解を深め、相手の人格を  
尊重する。

友達は、人が生きる上で無くてはならない存在である。そして、家族以外で特にかかわりを深くもつ存在であり、遊び仲間などとして影響し合う関係である。また、成長とともに遊び仲間としての関係から、励まし合い、高め合う関係へと影響力を拡大していく。この友達関係をよりよく築くには、互いを認め合い、理解し合い、助け合い、信頼感や友情をはぐくんでいくことが大切である。

この時期の子どもたちは、仲間意識が強く、気の合う友達同士でグループをつくって自分たちの世界を楽しもうとする傾向がある。集団での活動がこれまでになく盛んになる反面、自分の都合で行動しようとすることで、衝突が強くなることも見られる。このような特性から、この時期には、健康的な仲間集団を育成していくことが大切であり、そのために、友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことを指導していくことは意義のあることである。

(2) 児童について

本学級は、基本的に明るく素直な児童が多い。運動が大好きで活発な子もいれば、物静かで読書やお絵かきを楽しむ子などもある。また、休み時間には気の合う友達と誘いあっって仲よく遊んだり、集団で活動する時には友達同士で協力して取り組んだりする様子が見られる。また、帰りの会の「今日のキラキラ」で友達の良さを伝えあうなど、様々な活動で互いのよさや、考え方の違いを意識し始めており、互いに理解し合い助け合うことは大切なことであると理解している児童は多い。

しかし、気の合わない友達に対しては行動が伴っていない。相手の気持ちや立場を考えずに、自分の考えを強く主張することがある。また、よくない行動をしている時に、注意する場面も見られるが、相手を責めるような注意をすることもある。

そこで、本資料を通して、単なる遊び友達の枠を超え、一緒に生活したり同じ目標に向かって取り組んだりする関係の友達についての考えを深めさせたい。

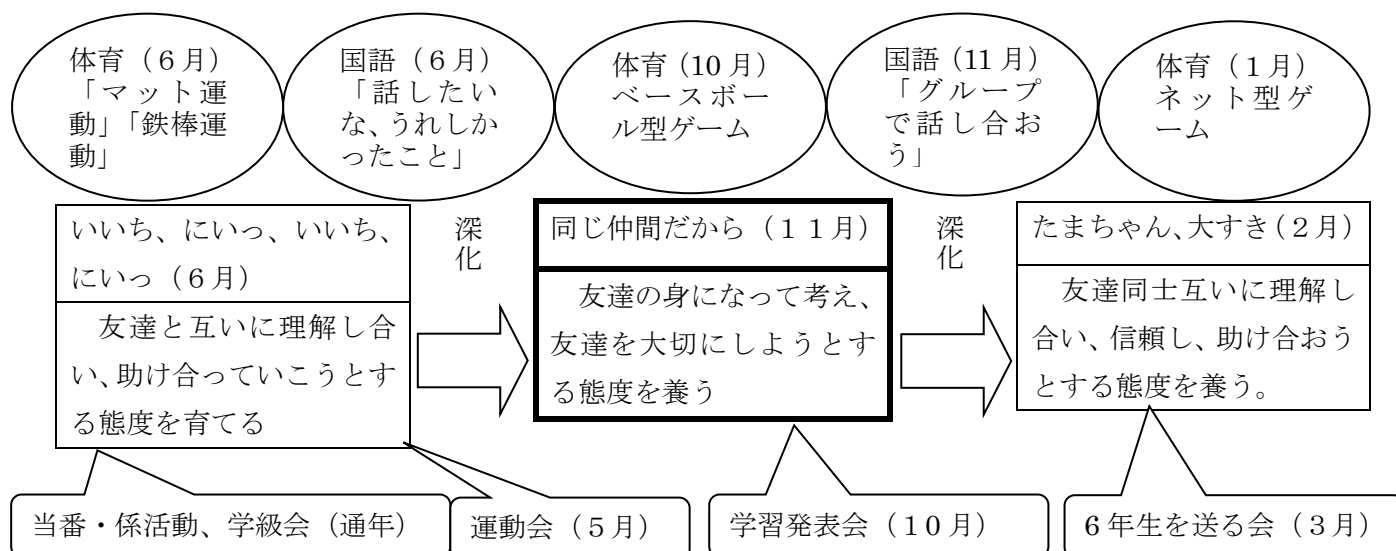
#### 4 教科・領域との関連と補充・深化・統合の視点

2- (3) 友情、信頼について、児童は「いいち、にいつ、いいち、にいつ」「なかよしだから」「たまちゃん、大すき」という3つの資料をもとに深めていく。

「いいち、にいつ、いいち、にいつ」では、「友達と互いに理解し合い、助け合っていこうとする態度を育てる」をねらいとして、友達と助け合うこと、励まし合うことが大切であることを主人公の気持ちから学んできた。

運動会における「ソーラン」の踊りや、音楽「リコーダーをふこう」、体育「マット運動」「鉄棒」、ではそれぞれグループでの教え合いを取り入れ、互いに助け合いながら技の向上を図っていった。さらに、国語「話したいな、うれしかったこと」では相手の立場に立って、共感的に話を聞くことが大切であることを学んできた。

本資料「同じ仲間だから」では、「友達の身になって考え、友達を大切にしようとする態度を養う」をねらいとして指導していく。



#### 5 本時の指導

##### (1) ねらい

友達の身になって考え、友達を大切にしようとする態度を養う。

##### (2) 指導にあたって

- ・導入では、「友情信頼」に関わる自分たちの経験を想起させ、資料への方向付けを図る。
- ・展開前段では、とも子的心情を中心に話し合わせる。勝利したいという気持ちや、光夫がいることへの不満と光夫を仲間から外すことはよくないという思いで迷うとも子に共感させたい。そんなとも子が、転校した友達からの手紙を思い出すことによって、仲間外れにされる光夫のつらさに気づき、ひろし達の行動を止めたときの気持ちを考えさせる。このことで、友達を理解して行動することの大切さを感じさせたい。展開後段では、同じ目標へ向けて、仲間と活動したことには何があるか問い、友達との関わり方について自己の在り方を見つめさせる。
- ・終末では、価値を表し行動する前向きな児童の姿をエピソードや写真で紹介することで、実践意欲につなげたい。

(3) 展開

	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 3分	1 「友情信頼」に関わる経験について想起する。 ○体育の○○で、友達と仲良くするために気を付けていたことはありましたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の得意なことに合わせてポジションを組んだこと。</li> <li>・失敗しても応援すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と協力して競技に取り組んだ経験を想起させ、資料への方向付けを図る。</li> </ul>
展開 37分	2 資料について話し合う。 ○返事に困ったとも子は、どんなことを思ったのかな。  ○よし子さんからの手紙を思い出して、とも子はどんなことに「はっと」したのかな。  ◎「同じ2組の仲間じゃないの」と言ったとも子の心には、どんな思いがあったのかな。  3 自己の生活を考える。 ○今まで同じ目標に向かって、仲間のことを考えて行動したことはありますか。また、これからどうしていきたいですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光夫さんがいればまた負けてしまうかも。</li> <li>・どうすればいいんだろう。</li> <li>・その位の怪我なら体育はできるし、光夫さんを休ませるのはいけない。</li> <li>・自分たちも、光夫さんを仲間外れにしようとしていたこと。</li> <li>・仲間外れにされる人のつらい気持ちが分かって。</li> <li>・仲間外れは絶対いけないのだということ。</li> <li>・仲間外れにされたらつらいはずだ。</li> <li>・光夫さんを休ませて勝ってもうれしくない。</li> <li>・光夫さんも2組の一人。皆で一緒に頑張りたい</li> <li>・マラソン大会の練習で、最低4周を全員の目標にした。走るのが苦手な人にも、頑張ると声をかけてあげた。</li> <li>・学習発表会で、演技が上手いときに、友達がコツを教えてくれた。友達が困った時に、手伝ってあげたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひろしの考えは間違っていると思いつつも、光夫が入った時のことも考えて、返事に困るとも子の気持ちを考えさせる。自分たちの都合で仲間外れにしようとする、人間の弱い面を理解させたい。</li> <li>・仲間外れにされる側のつらい気持ちに共感させることを通して、よし子の手紙を読み「はっと」した経緯や、光夫を仲間外れにすることに対するとも子の気持ちについて考えさせる。</li> <li>・とも子が光夫を思う気持ちには様々な考え方がある。「同じ仲間」という言葉から、友達の身になって考えることや、理解すること、助け合うことの大切さを考えさせる。</li> <li>・友達との関わり方について自己の在り方を見つめさせる。今までできていた児童、本時で気付いた児童、それぞれの立場で自分はどうだったのか、これからどうしていきたいのかを考えさせる。</li> </ul>
終末 5分	4 価値を表し行動する自分や友達の姿を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>(・これからも、友達のことを考えて行動しよう。)</li> <li>(・友達のことを考えて行動するって大切だなあ。これからは頑張りたい。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・価値を表す前向きな児童の姿をエピソードや写真で紹介し、余韻をもたせて終わらせることで、行為への意欲付けを図る。</li> </ul>

